



鳥類の生殖戦略と受精



講師：笹浪 知宏 准教授
(静岡大学 農学部)

動物は受精戦略に工夫を凝らし、生存競争を勝ち抜く事で今日における進化を遂げてきた。鳥類は季節繁殖を行う動物であり、その受精戦略は非常に巧みである。繁殖期には短期間に複数の卵子を排卵し産卵するが、それらの卵子すべてを効率良く受精させるために、精子を貯蔵する特殊な組織を輸卵管に持っている点はその一例である。精子貯蔵管 (Sperm storage tubules: SST)と呼ばれるこの組織中で、精子は長期間受精能を維持するので、一度の交尾で長期間受精卵を産み続けることが可能である。また、鳥類は、他の多くの動物とは異なり、受精の際に複数の精子が卵内に侵入する「多精受精」を行う動物である。これまで、なぜ鳥類が多精受精という戦略を採用しているのか、その生理的な意義は不明であった。

本セミナーでは、鳥類の貯精という優れた生殖戦略とその分子機構を紹介するとともに、多精受精の生理的な意義および、多精受精を体外で再現することにより、世界で初めて顕微授精法でヒナの孵化に成功した事例を紹介したい。

日時：5月25日(木) 17:00～

場所：ゲノミクス研究棟2階セミナー室



お問合せ：バイオサイエンス教育研究センター
Tel 028-649-5527
E-mail: c-bio@cc.utsunomiya-u.ac.jp